

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【公表番号】特表 2018-532834 (P2018-532834A)

【公表日】平成 30 年 11 月 8 日 (2018.11.8)

【年通号数】公開・登録公報 2018-043

【出願番号】特願 2018-513545 (P2018-513545)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/02 (2006.01)

C 0 8 K 3/34 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2018.01)

C 0 9 D 201/02 (2006.01)

C 0 9 D 7/61 (2018.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

C 0 9 D 7/63 (2018.01)

C 0 8 J 3/215 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 101/02

C 0 8 K 3/34

C 0 8 K 5/00

C 0 8 K 3/00

C 0 9 D 201/02

C 0 9 D 7/61

C 0 9 D 5/02

C 0 9 D 7/63

C 0 8 J 3/215 C E Y

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 20 日 (2019.8.20)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 4 】

本発明の保存安定性水性組成物は、(c)揮発性塩基(「フィロシリケート懸濁液または分散液」)中に分散されたフィロシリケートの懸濁液または分散液をさらに含む。本発明において有用なフィロシリケートは、ナトリウムマグネシウムシリケートであってもよい。フィロシリケートはまた、ナトリウムリチウムマグネシウムシリケートであってもよい。好ましいフィロシリケートはラポナイトである。ラポナイトは、2つの四面体微視的結晶シートの上に挟まれた中央の八面体シートを有し得る板状の層構造を有するリチウムもおそらく含有するナトリウムマグネシウム混合シリケートである。好ましくは、本発明で用いられるラポナイトは、ナトリウムリチウムマグネシウムシリケートである。ラポナイトは、ヘクトライトとして知られる天然鉱物の合形成態である。ラポナイトは、天然ミネラルヘクトライトよりもはるかに小さい粒径を有するので、この種のシリケートの合成起源であるラポナイトは、天然形態よりもより好ましい。市販されているラポナイトの例

には、全てBYK Additives & Instrumentsから市販されるLAPONITE（商標）XLS、LAPONITE XLG、LAPONITE RD及びLAPONITE RDSが挙げられ、より好ましくはLAPONITE XLGである。